

景気景況調査報告

(第22回)

令和3年	4～	6月期	実績
令和3年	7～	9月期	見通し

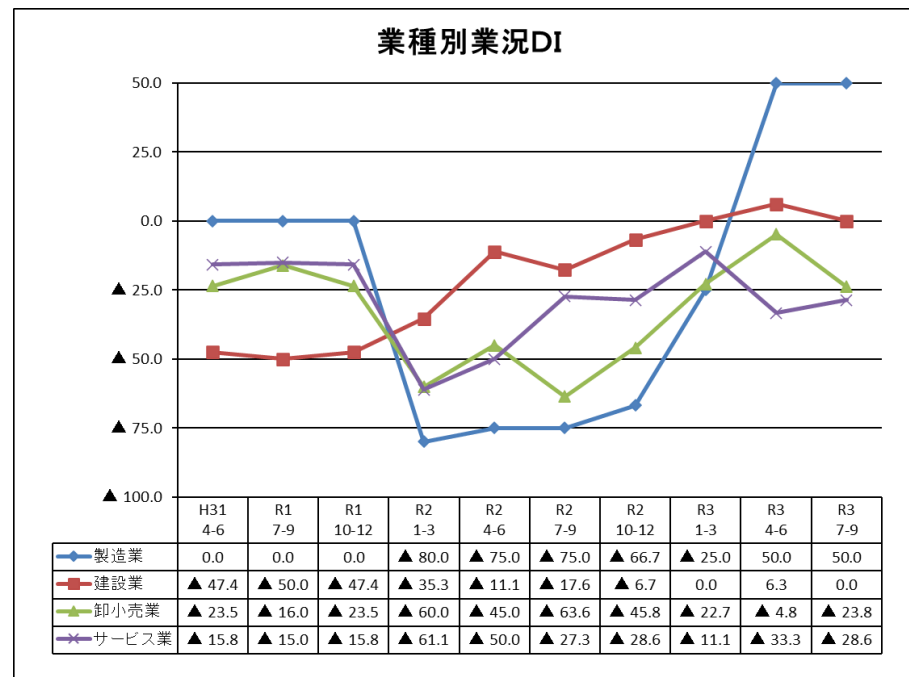
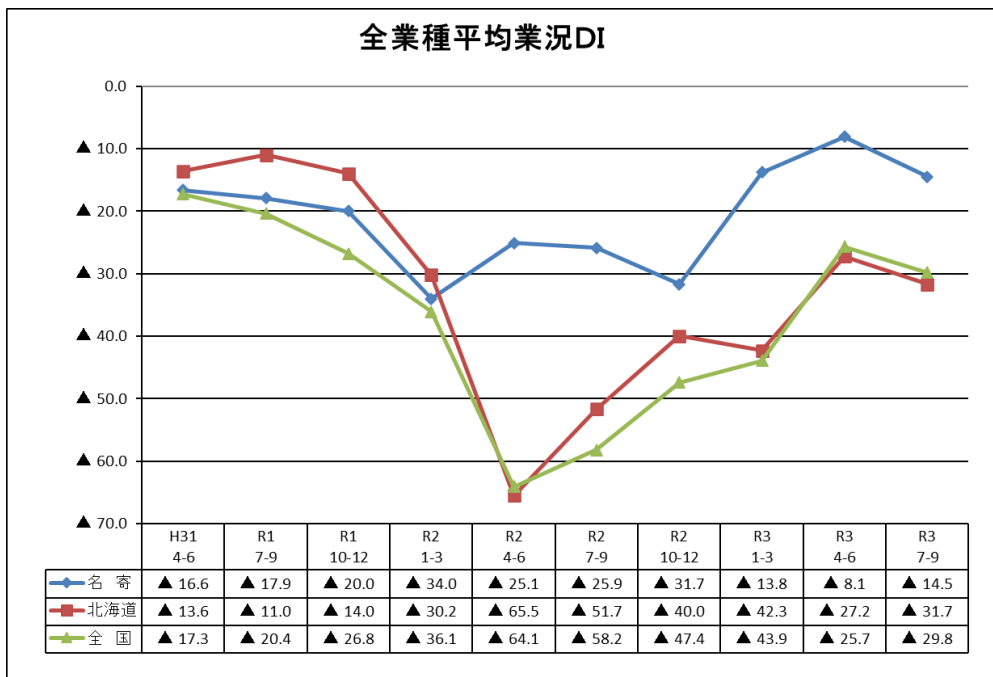
令和3年8月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 令和3年4～6月期の実績及び令和3年7～9月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 125社

II 調査結果

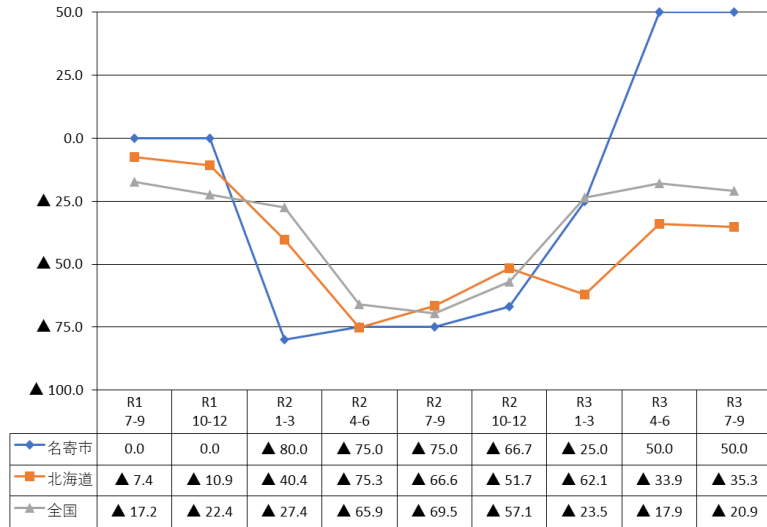


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

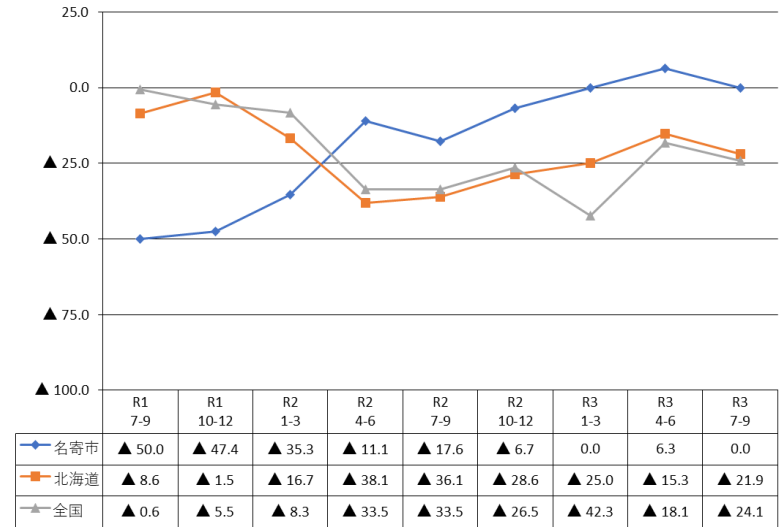
- ・今期、全業種平均で▲8.1ポイントと前回調査と比べ5.7ポイント好転となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期19.1ポイント良いが、見通しでは道・市共にマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期17.6ポイント良いが、見通しでは国・市共にマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・見通しでは今期と比べ6.4ポイント悪化となっており、依然としてコロナ回復の見込みが無いという回答が多くみられる。
- ・業種別では、前期に比べサービス業のみ減少となっている。見通しでは卸小売業、サービス業共に悪化傾向となっている。

業種別業況DI

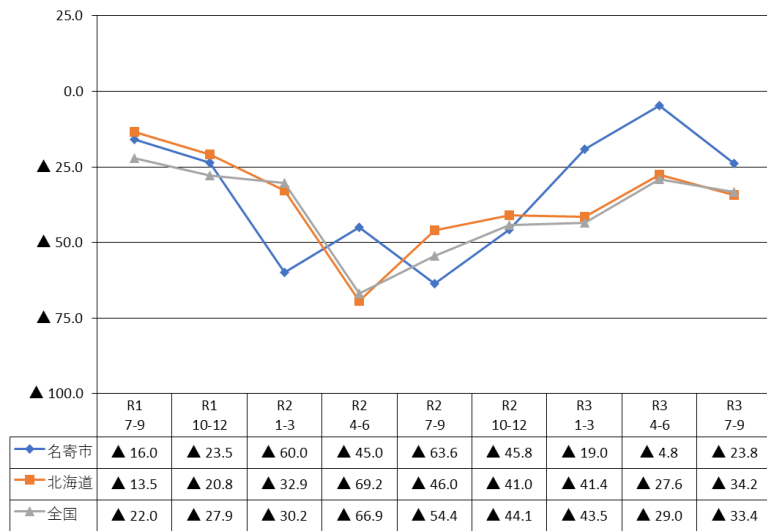
製造業 業況DI



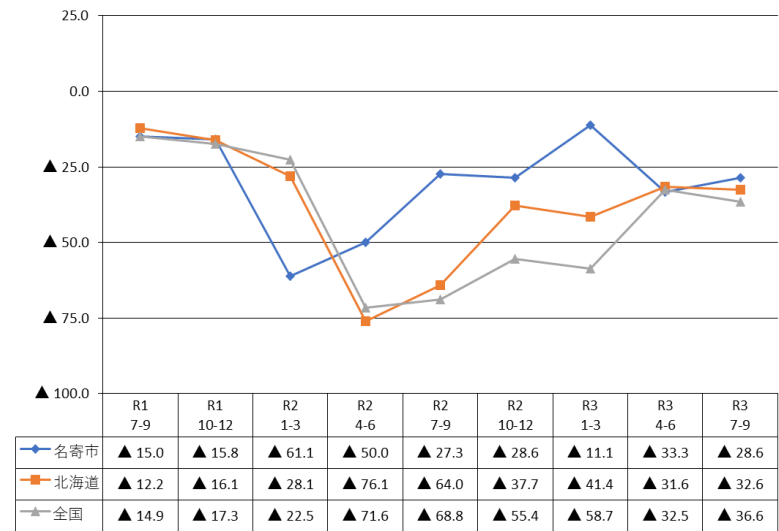
建設業 業況DI



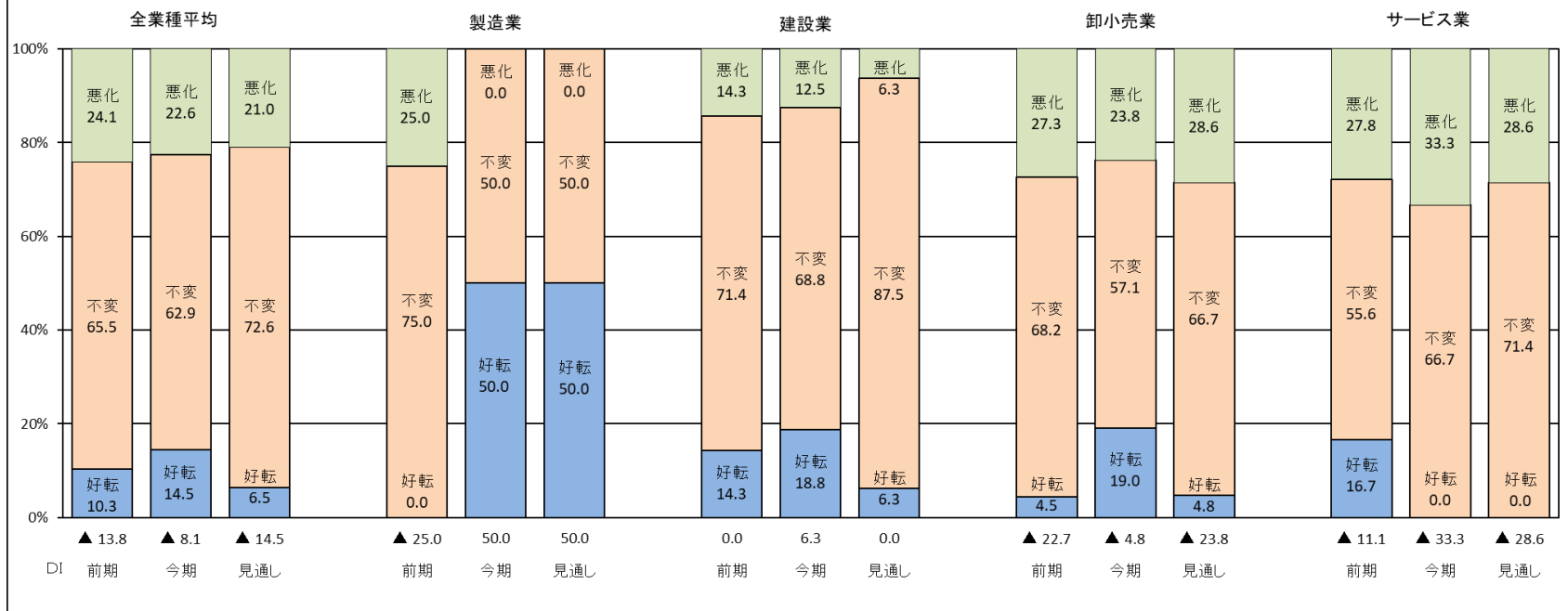
卸小売業 業況DI



サービス業 業況DI



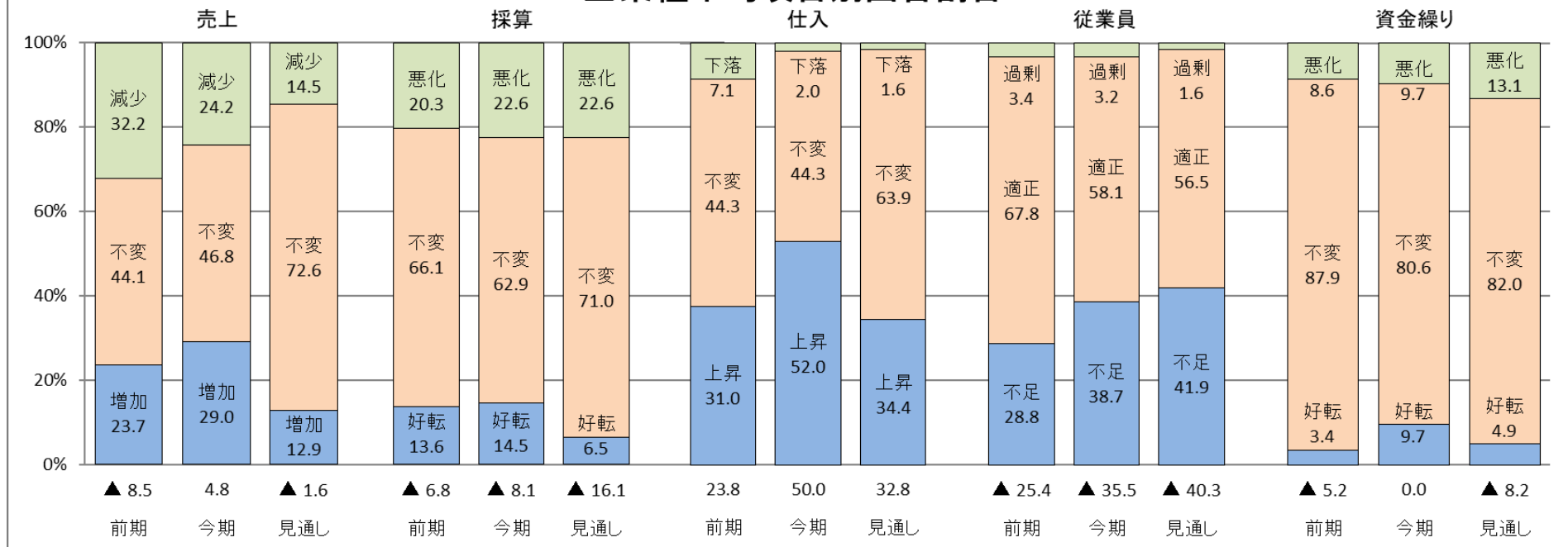
業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が25.0%減少しており、「好転」が50.0%増加となっている。
見通しでは「好転」「不変」ともに増減はない。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が1.8%減少しており、「好転」が4.5%増加している。
見通しでは「好転」「悪化」ともに減少している。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が3.5%減少しており、「好転」が14.5%増加している。
見通しでは「悪化」が4.8%増加し、「好転」は14.2%減少となっている。
好転の要因として、コロナによる内食需要の高まりや、給付金、支援金の受取等がある。
反対に悪化の要因として、イベントや大会の制限や、原油価格及び原材料の高騰等がある。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が5.5%増加しており、「好転」が0%となっている。
見通しでは「悪化」が4.7%減少しているが、「好転」が今期と同じく0%となっている。
全体的に人口減少・仕入運賃増加・お客様の減少・緊急事態宣言による事業縮小・若年層不足・仕入単価増加
コロナによる人流制限・コロナ対策予算の増加、コロナの見通し不透明等々の要因が挙げられている。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI

今期4.8ポイントと前期より13.3ポイント増加となっている。見通しでは6.4ポイント減少となっている。

[減少の要因]

・新型コロナウイルスの影響 ・客の減少

[増加の要因]

・補助金による工事の増加 ・新規顧客契約 ・給付金支援

採算 DI

今期▲8.1ポイントと前期より1.3ポイント減少となっている。見通しではさらに8.0ポイント減少となっている。

[減少の要因]

・利益率の悪化 ・固定費の増加 ・売上高減少 ・原油価格の増加

仕入 DI

今期50.0ポイントと前期より26.2ポイント増加。見通しでは17.2ポイント減少となっている。

[増加の要因]

・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇 ・価格改定

従業員 DI

今期▲35.5ポイントと前期より10.1ポイント減少となっている。見通しではさらに4.8ポイント減少となっている。

[不足の要因]

・高齢化 ・人口減少 ・若年層の減少 ・求人難 ・退職者増

資金繰り DI

今期0.0ポイントと前期より5.2ポイント増加となっている。見通しでは8.2ポイント減少となっている。

[減少の原因]

・売上減少に伴う減少 ・新型コロナウイルスの影響 ・先行不透明